

皆さん、こんにちは！いかがお過ごしですか？

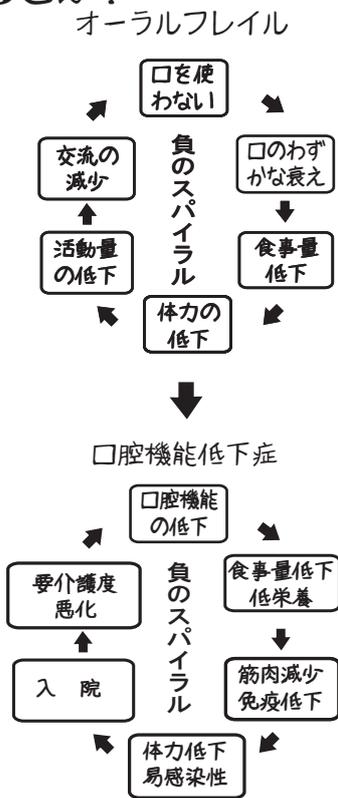
津谷歯科医院、院長の津谷良です。

オーラルフレイルは、わずかなむせや食べこぼし、滑舌の低下といった口腔機能が低下した状態を示すものであり、国民の啓発に用いる用語(キャッチフレーズ)です。一方、口腔機能低下症は、オーラルフレイルと自覚症状は重なる部分が多いのですが、より進展した状態で、歯科医院での検査結果に基づく疾患名となります。口腔機能低下症は、加齢や様々な疾患・障害を起因として口腔の機能が複合的に低下している病気のことです。放置しておくとう嚼障害、摂食嚥下障害、口腔の機能障害を引き起こし、その結果、低栄養や免疫低下、サルコペニアを進展させて全身の健康を損なうことが明らかとなっています。今回は、『口腔機能低下症』についてご紹介します。



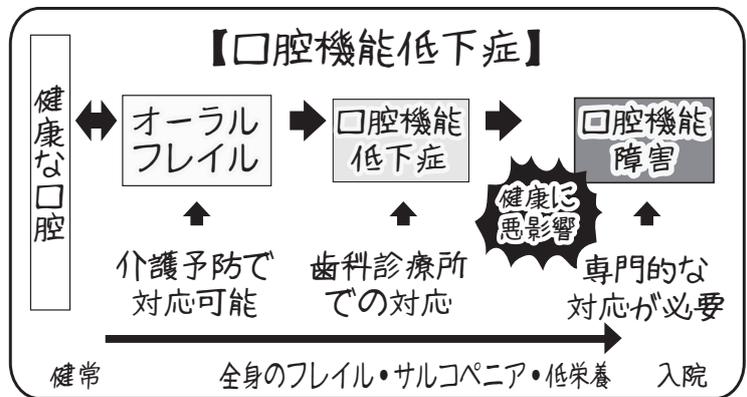
1. 口腔機能が低下するとは？

全身のフレイルのサインであるオーラルフレイルの自覚症状はわずかで、普段の生活の中では衰えを気付くことは少ない段階ですが、対策を取らないと徐々に健康には戻れない口腔機能低下症へと進展します。口腔機能低下症は本格的な機能障害の入口であり、要介護認定率や死亡リスクが高くなるため、早期対応と継続的管理がとても重要になります。国民がセルフチェックをしてオーラルフレイルと感じたら、歯科医院を訪れて口腔機能低下症の検査を受ける、という流れが一般的になることが望まれます。



2. 口腔管理で健康寿命が延びる!

高血圧や高脂血症が重大な血管病変を引き起こすリスクの高いことから、医師の定期的な管理のもと、服薬してリスクを下げるのと同じように、歯科医師が『口腔機能低下症』を検査で診断し、口腔衛生管理と口腔機能管理(定期的なチェックとリハビリや指導を実施すること)に介入することで、要介護を予防して健康寿命を延ばしたり死亡リスクを下げる



ことができます。要介護高齢者の場合、介護度悪化や入院を予防することが期待できます。

◆ 口腔機能低下症は歯科の「口腔機能精密検査」で判定できます ◆

口腔ケア新聞の発行にあたって、ここ数年、外来患者さんやそのご家族から訪問診療の問い合わせやご依頼を受けるケースがとて増えました。小さな病気がされてしまったことがキッカケで、寝たきりになってしまわれたりして、「いつもお元気でいいですね。」って話をしていたのに…。そんなことが続いたので、これは本格的に訪問診療に取り組まなければいけないかなって、強く思うようになりました。

そこで取り組みの一環として、要介護者の歯と口に関する情報を地域の介護に携わっている方にお届けしようと考え、口腔ケア新聞を毎月1回発行しています。

津谷歯科医院

- 診療時間 9:00~12:30/14:00~18:30 (土曜日は16:30まで)
- 診療科目 歯科 小児歯科
- 休診日 木曜・日曜・祝祭日
- 院長 津谷良
- 岡山市中区海吉1807-14
- ☎ 0120-779-418 FAX 0120-779-413